

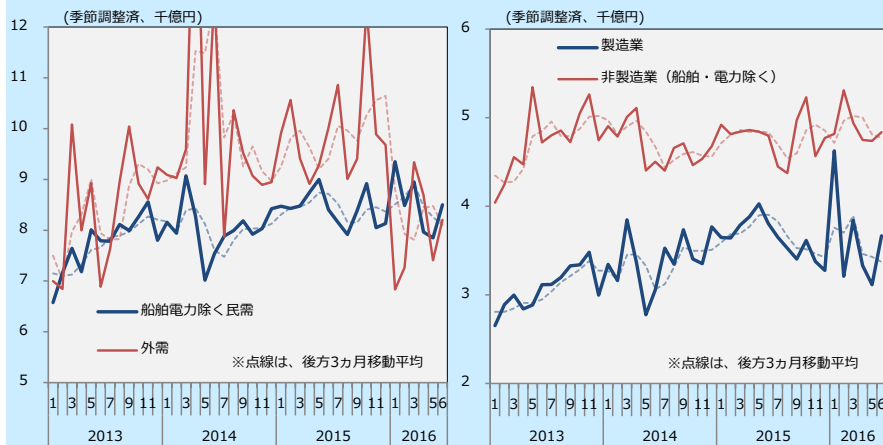
日本：機械受注統計（2016年6月）

—6月の民需は3ヶ月ぶりの増加—

MRI Daily Economic Points

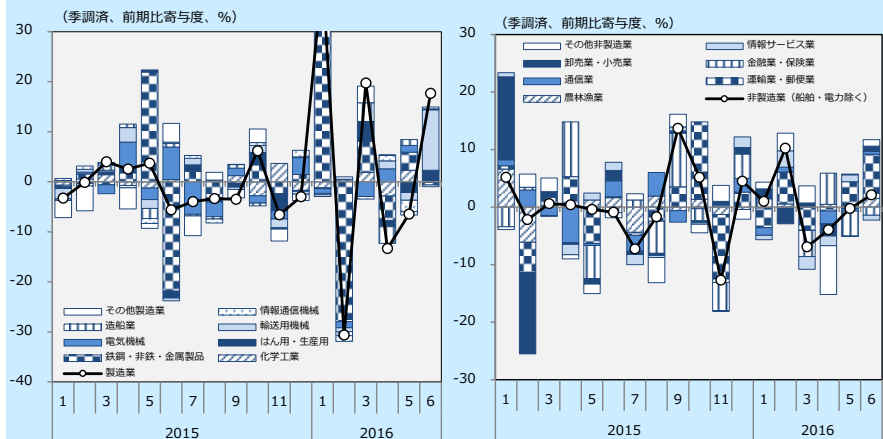
August 10, 2016

機械受注額／製造業、非製造業の機械受注額



資料：内閣府「機械受注統計」

製造業の機械受注額の寄与度分解／非製造業の機械受注額の寄与度分解



資料：内閣府「機械受注統計」をもとに三菱総合研究所作成

評価ポイント

2016年6月の結果

- 16年6月の機械受注額は、設備投資の先行指標といわれる船舶・電力を除く民需が、季調済前月比+8.3%となり、3ヶ月ぶりに増加した。外需も同+10.8%と、3ヶ月ぶりに増加した。
- 6月の機械受注額を業種別にみると、製造業は同+17.7%、非製造業（船舶・電力除く）は同+2.1%とともに増加。
- 製造業は、2ヶ月連続で減少した後、6月は大きめの増加となった。内訳をみると、輸送用機械が前月比寄与度+12.1%と、航空機の大型受注により大きく増加。はん用・生産用機械（同+2.1%）もプラス寄与となった。
- 非製造業（船舶・電力除く）の受注額は、4カ月ぶりに増加した。運輸・郵便業（前月比寄与度+7.7%）が鉄道車両の大型案件により増加し、大きく伸びを牽引。金融保険業（同▲1.4%）はマイナスとなったものの、農林漁業（同+1.5%）、卸売業・小売業（同+0.9%）、通信業（同+0.5%）も増加し、全体でもプラスとなった。
- 4-6月期の船舶・電力除く民需は、季調済前期比▲9.2%の減少となった。5月公表の4-6月期の見通しでは同▲3.5%の予想だったが、4、5月の大幅減が影響し、製造業、非製造業ともに、見通し対比下振れて着地。
- 7-9月期の機械受注の見通しは、船舶・電力除く民需で季調済前期比+5.2%と、製造業を中心に増加が予想されている。

基調判断と今後の流れ

- 機械受注は、6月単月では増加したものの、内外需の弱さを反映して、弱めの動きとなっている。非製造業は、均してみれば、緩やかな増加基調にあるものの、製造業は、15年半ば以降緩やかに低下している。
- 先行きの機械受注は、横ばい圏内で推移すると見込む。熊本地震により毀損した設備の復旧はプラス材料となるものの、製造業では、円高や不透明な海外経済が重石となり、輸出企業を中心に弱めに推移すると考えられる。非製造業は、物流施設整備やインバウンド関連投資から、引き続き緩やかながらも増加基調を維持すると予想する。